



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No. 528  
所長 本多直也  
発行 平成28年7月10日  
日字 山田 恭正 教育長



『ジュースやさんごっこ  
いらっしやいませ!』  
撮影者 土岐津小学校附属幼稚園  
山村 美香 先生



## 「カスタネット」

土岐市教育研究所長 本多直也

小学校1年生の音楽の時間でカスタネットを扱います。もともと打ち合わせるだけで、簡単に演奏できる楽器なので、幼稚園等の就学前の場でも使われており、小学校になって初めて子どもたちが目にするものではないようです。

さて、そのカスタネット。学校で使われているのは青と赤の板でつくられており、教育用カスタネットとして学校に普及しています。しかし、カスタネットの歴史をひもとくと、それはスペインで発達した楽器であり、舞踊のフラメンコに用いられているとのこと。それも単一色のものが多いようですが。

では、どうして青と赤の板でつくられているのが音楽室にあるのでしょうか。それは、教育用の打楽器として普及を進めようとしたとき、青が男の子、赤が女の子で、誰もが使えるようにしたためだそうです。

今、様々な場所で男女の性別に関係なく、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に

向けて取組がなされています。学校でも、男子と女子で異なっていたジャージの色が同じものになったり、男女混合名簿が教室の中で使われたり、男性の保育士さんがみれるようになったり・・・男女平等に向けた取組が進んでいます。

しかし、カスタネットをよく見ると、多くは赤の板の側に突起があります。その突起によって心地よい音を奏でており、その突起がないとおそらく、カスタネット特有の音は出ないと想像します。

「青は男の子の色、赤は女の子の色」の概念は無くなりつつあります。でも、いい音を出そうとしたとき、それぞれの特徴を生かして、教室でよく使う言葉で言うならば「力を合わせる」ことも大切なことをカスタネットをみて思います。

目に見えるところの改善を進めながら、豊かな社会を築くには、どのようにしてお互いの持ち味を生かせばよいのかを考える子どもに育てたいものです。

# 学ぶ喜び、学ぶ意味

岐阜市教育委員長 伊藤 知恵子

1 私は、小中学校時代、特に高校時代、学校で勉強することを楽しいと感じることはあまりなかったと思う。

振り返ると、一番楽しいと感じたのは、中学3年生の時、どうして自分は同じような問題をよく間違えるのかなど反省し、間違いノートを作ったり、カードを作るなどして自分なりの勉強方法を考え工夫したことで理解できるようになった頃だったと思う。成績も同時にアップし、自分なりの勉強の仕方にやりがいを感じた。

しかし、勉強がどうしても心から楽しく感じられなかったのは、成績というものに支配されていたからだと気付いたのは大学に入ってからだった。

大学では、成績を気にすることなく、自由に学ぶことができ、知りたいことをどんどん探究できた。その時、勉強して知らなかったことを理解し自分の知らなかった世界が広がっていくことに、純粋に喜びを感じた。初めて勉強が楽しいと心から感じ、知的好奇心を満たしてくれるものであることを実感した。

2 私が再び勉強を始めたのは、結婚直後からの大学の通信教育であったが、これも成績を気にすることなく、学びたいことをわかるまで徹底して調べて学ぶことができたため、勉強は楽しかった。

その延長線が司法試験であったが、当初より誰も合格など全く期待しておらず、ただただ新しい知らなかった世界がどんどん広がっていくのを実感し、勉強は楽しかった。

3 こうして振り返ってみると、勉強が楽しくない、つらいと感じるのは、やはり他人と比べての成績というものに縛られてしまうからではなからうか。少なくとも、私はそうだった。

勉強というのは、新しいことを知ることにより昨日までの自分が変わることを実感できる、大げさに言えば全く新しい世界が自分の中に広がることであり、本来は楽しいことのはずである。

人間にはいろいろな欲があるが、おいしいものを食べると食欲が満たされるように、知識欲もそれが満たされれば、幸福な気持ちになれるものだと思う。

成績や順位が上がったということで満たされるのは、人と比べての自分の一面でしかない評価の問題にすぎず、それで心より満足できないのは、本当の勉強の喜びとは違うからではなからうか。

だから、私は自分の学生時代の反省を込めて、「他人と比べなくていい、昨日の自分と比べての進歩に喜びを感じてほしい」というメッセージを送っている。本当の学ぶ喜びは、成績に関わらず誰でも得ることができるから。

4 では、学ぶ意味は何なのか。子供の時は、わからなかったが、大人になって、初めて学ぶことが自分の命をも守ることにつながるとわかるようになった。

放射能の問題を考えなければならなかったとき、DNAのことが判らないとその問題点が理解できなかったが、あまり好きではなかった理科の勉強が役に立った。

歴史のことも知らなければ、今の自分達の社会を今後どういう方向にしていっていいか判断もできない。

かつて、サイン・コサインなんて社会に出ても何の役にも立たないから勉強の意味なんてないと言った人がいた。確かに社会ではそれを直接使うことは稀である。しかし、そうした勉強を通じて、論理・道筋を考える思考能力が養われ、その思考能力が、他の知識とあいまって、いろいろな問題が生じた時に解決に多いに役立つ。

勉強したことは、直接役に立つこともあれば、間接的に役に立つこともあるが、無意味なことは何もない。

5 勉強は、学生時代で終わりではない。一生涯死ぬまで勉強はし続けるもの。

それは、勉強が人と比べるものではなく、自分を変えてくれる知的好奇心を満たしてくれるものであり、生きていくために必要なことを与えてくれるものだから。

勉強は楽しいものであり、生きる力を与えてくれ、決して自分を裏切らない宝物をくれるものだというメッセージを、これからも生徒達にも親にも送り続けていきたい。

# 幼児教育で大切にしていきたいこと

土岐市園長会 会長 楓 貴美子

私が幼児教育に携わる上で、大切にしていきたいことの一つは“子どもの立場に立った丁寧な幼児理解”です。

## 子どもの思いを大切に

幼児教育では幼児理解をすることがとても大切です。幼児理解をするためには、子どもの言葉や動きを“よく観る（見る）”ように努めています。そして、子どもの気持ちに立ち、共感的理解、肯定的理解をすることが必要です。

しかし、日々子ども達とのかかわりを振り返ってみると、私たち教師はもっと子どもの気持ちを大切にしていかななくてはならないと反省します。

以前、こんなことがありました。

5歳児と老人会との交流会を行い、お礼に子どもたちの作ったペンダントを渡すことにしていた。子ども達がじゅず玉やストローなどをテグスに一つひとつ通したものであった。私は謙遜の気持ちもあり「粗末なものですが子どもたちのプレゼントを受け取ってください。」と言って渡そうとすると、A男が怒ってこう言った。「違うよ！粗末なものじゃないよ。すてきなものだよ。」と抗議してきた。A男に続いて他の子の「すてきなものだよ。」「みんなで頑張って作ったよ。」と言ってきた。

子ども達のおじいさん、おばあさんにプレゼントしよう、プレゼントしたら喜んでくれるかなという期待をもって作っていた気持ちを汲んでいませんでした。“粗末な”という言葉は使うべきではありませんでした。

私は、クラスの子に「ごめんね。一生懸命に作ったよね。心を込めて作ったよね」と謝りました。

私はA男に感謝しました。私たちは子ども達から教えられることが多くあります。



## 幼児理解をすることで次への見通しを

幼稚園では一人ひとりの様子・言動から、今何に興味・関心をもっているかを理解できます。

ある日のこと、T教師がザリガニを数匹幼稚園に持ってきた。みんなの通るテラスに置いておくと、登園してきた子がザリガニを発見する。「ワーッ！！」という歓声。我先にと見入っていた。

「これ、怒っとるで、ハサミ振り上げてるよ。」

「これ、大きいでおとなのザリガニ。」

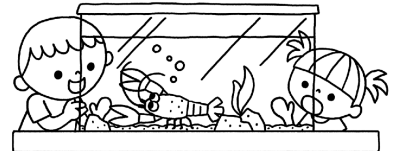
「どうやって触るの？」

「私、触れるよ。」

「背中を持つといいよ。」

「後ろから持つといいよ。」

などと口々に話し合っていた。



遊んでいる子ども達の様子を見てみると興味・関心は一人ひとり違っていることが分かります。

怖そうだけど触ってみたい。

何、食べるのかな？

だれがもってきたんだろう？

手を近づけたらどうするかな？

僕は触れるよ。

このように一人一人の感じ方・興味・関心のもち方を理解すると、次の保育へのつなげ方がうかんできます。

触り方を友達同士で知らせていく。

ザリガニの食べものを調べる。

ザリガニの雄と雌の違いを調べる。

ザリガニを見たり触ったりしてみつけたことを話す。

ザリガニの絵を描く。

ザリガニの真似をして表現遊びをする。

幼児理解をすることで見通しをもって援助や環境の用意をしていくことができると思います。

幼児理解を丁寧にし、子どもの思いを大切に子どもと共に育っていける保育者であり続けたいと思います。

「確かな学力の育成」に関わって

## 平成28年度学力向上推進委員会の活動より

### 1 確かな学力の育成に向けて

土岐市では昨年度、市学力向上推進委員会を立ち上げました。今年度は、昨年度行った研修内容を基にして、各学校で「共通理解」「共通行動」をキーワードに指導改善が推進されるよう取り組んでいきます。駄知小学校の久野教頭先生は、市の学力向上を推進していくために各校の授業改善や土岐市の取組について指導・助言などを行う学力向上推進リーダーの役割を担っています。

～市学力向上推進リーダーより～

### 学力向上は『使命』

駄知小学校 久野 雄司

児童生徒の生きる力を育み、全ての子どもたちに確かな学力を身に付けることは、私たち教職員の責務です。学力を身に付けることは児童生徒の夢の実現の礎となります。また、学力を身に付けることで不幸になる子はいません。だからこそ、どの子にも確実に力を付け、学力を向上させることは、全ての教職員の『使命』だと思います。

では、一体何を、どのようにすれば児童生徒の学力は向上するのでしょうか。

まずは、学校が組織として責任をもち、継続した授業改善等の取組を実施していくことです。児童生徒の実態を把握し、日々の授業の在り方や取組についての共通理解を常に図り、全学年・全教科体制で、学力向上に取り組むこと。つまり、全教職員の「共通理解・共通行動」が必要となります。

学力を向上させるためには、児童生徒一人一人の学力・学習状況を見届けること、実態を分析、把握をし、指導改善に努めていくことは必要不可欠です。一人一人の学力・学習状況を把握するものとしては、全国学力・学習状況調査、全国標準学力検査、県学習状況調査、Q-Uアンケートなどがあります。これら様々な調査は実施することが目的ではありません。調査による結果から、児童生徒の実態を分析、把握し、指導改善の方策を計画し実施していくことこそが大切になります。

5月の第1回学力向上推進委員会では、4月に実施した全国学力・学習状況調査の自校採点結果（土岐市集計分）をもとに、正答率が低かった問題についての分析を行いました。全国学力・学習

状況調査の自校採点を行うことは、児童生徒の実態をより早く分析、把握することができ、指導改善を早い段階から実施できることにつながります。しかし、今年度、自校採点を行った学校は土岐市内14校のうちわずか4校だけです。駄知小学校では自校採点はしたものの、全職員によるものではありませんでした。さらに、自校採点結果を分析し、指導改善に向けての具体的方策の計画作りまでには至っていません。（昨年度実施したTK式学力観点別到達度学力検査の結果と、4月に実施した国語学習アンケートの結果を全職員で分析し、研究の方向と具体的な方策については検討しました。）全国学力・学習状況調査など、児童生徒の実態を把握する機会はこれまでも多くありましたが、私たちはこうした機会を学力向上へと活かし切れていないのではないのでしょうか。

全国学力・学習状況調査の自校採点結果の分析を行ったところ、児童生徒の危機的状況が見えてきました。一例を挙げると、小学校算数B4（1）では4択問題にもかかわらず、正答率が30%しかありませんでした。何とかしなくてはなりません。各学校における様々な事情があるとは思いますが、児童生徒の学力向上に向けて本気にならなくてはいけないのは、私たち教職員です。学力向上に向けて、様々な機会を通して児童生徒の実態を分析し、それによる具体的方策を立て、実践を積み重ねていき、その方策や実践がどうであったのかを検証していくことを全教職員で取り組んでいきたいと思います。学力向上推進委員会では、分析の仕方を学び、先進校を視察し、実践の交流を行っていきます。委員は学んだことを各学校に持ち帰り、それを活かして児童生徒の学力向上に向けて推進していきます。

土岐市内の全職員で、土岐市の児童生徒全体のボトムアップ、学力向上を目指していきたいと思います。

## 2 土岐市学力向上推進委員の紹介

顧問校長 杉浦 正佳 校長 (駄知小)  
市学力向上推進リーダー 久野 雄司 教頭 (駄知小)



安藤 律子 (土岐津小)	佐々木美樹 (下石小)	小栗 博之 (妻木小)
中根のり子 (濃南小)	土本 高夫 (駄知小)	内海 裕樹 (肥田小)
板倉みゆき (泉小)	高木亜緒生 (泉西小)	
片田 誠 (土岐津中)	奥谷 治由 (西陵中)	加藤 宏峰 (濃南中)
中島 健志 (駄知中)	今井 竜彦 (肥田中)	西尾 実 (泉中)

## 3 平成28年度学力向上推進委員会実施計画

### I 研修 H27

#### 学習・学力状況調査等からの 分析方法を学ぼう



- ・学力分析の方法について
- ・学力と学習状況などとの関連について
- ・学力と授業内容との関連について

#### 児童生徒の目線にたった 改善方法を学ぼう



- ・分析をもとにした指導改善について
- ・児童生徒の目線にたった指導改善について
- ・授業改善の実践例について
- ・力のつく家庭学習について

#### 継続的、連続的な 授業改善サイクルを学ぼう

- ・PDCAサイクルについて
- ・検証する場について

#### 大学との連携

### II 実践 H28

研修したことをいかし、中心になって

## 推進していこう！全職員「共通理解」「共通指導」

今年度の学力向上推進委員会は、昨年度の研修内容を基にして、各学校で「共通理解」「共通指導」をキーワードに指導改善が推進されるよう支援します。  
その中で、土岐市として学力向上のために共通指導していく重点を次年度に向けて探っていきます。



#### 指導改善プランの共通理解

- ・年間計画と取組の重点を明確に
- ・「何を」「どのように」行うか共通理解し、「何で達成具合を評価する」のかを明確に

#### 第2回

- ・今年度（1学期・前期）の指導改善に向けての各校取組の重点の交流
- ・自校の指導改善プランの見直し

P

#### 児童生徒への共通指導

- ・実態を把握し、つまずきやつけたい力を探る
- ・学力を伸ばすための手立てをうつ（共通指導）

#### 第1回

- ・全国学力・学習状況調査本校採点結果（土岐市集計分）の分析を通し、実践的に分析方法を学ぶ

C

#### 第3回

- ・全学調今年度の結果から
- ・PDCAサイクルの中でみえた取組の重点の成果と課題

A

#### 第5回

- ・実践交流
- ・土岐市の授業改善の成果と課題について

#### 第4回

- ・管外研修

D

#### 推進力を高める組織体制づくり

- ・役割を明確に
- ・場と内容を明確に  
(分析、研修会、研究授業、研究会 等)

土岐市 小・中学校

## ニューフェイスの紹介

※今年度、土岐市へ着任した新規採用者は13名です。大学を卒業して、初めて教師として歩み始めた先生、何年も経験を積み重ね採用された先生。今、どのような想いで教壇に立ってみえるのでしょうか。



### ◆土岐津小学校

#### 栗野 聖崇



土岐津小学校の栗野聖崇です。4月に着任してから3カ月、元気いっぱいの子どもたちと一緒に過ごす学校生活は本当に楽しく充実しています。一日一日の生活の中でたくさんの「新しい」に出会えることに喜びを感じ、またそこから多くの学びが得られることに感謝しています。常に学ぶ意識を持ち、子どもたちを元気にするパワーが持てるよう日々精進していきたくと思います。

### ◆土岐津小学校

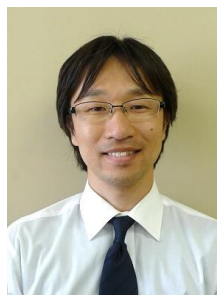
#### 吉田 佑子



「がんばれ、できる！」多くの友達から声援を受け初めて倒立ができるようになった子。それを見て自分のことのように喜び合う子ども達。その瞬間、教員としての喜びが込み上げてきました。このような「できた喜びの笑顔」のために、多くの先生方からいろいろと学び、実践していきたくです。子どもや先生方、地域も温かい土岐津小で学ぶことができることに感謝し、日々努力していきます。

### ◆下石小学校

#### 糸見 真



17年連続で土岐市に勤めることになりましたニューフェイスの糸見です。私の今があるのは、支えてくださった先生方のおかげです。本当に感謝しています。山田教育長さんに、「今年も土岐市に糸見先生がいるということは何かの縁だから、ご縁を大切にしてください。」と教えていただきました。「土岐市にすることが私の天命。」と胸に刻んで明日からもがんばります。

### ◆下石小学校

#### 深谷 優貴



本年度より事務職員として下石小学校にお世話になることになりました。初任で慣れないことも多く、不安もありましたが、着任して少し経った今、元気いっぱいな子ども達、素敵な先生方に囲まれて勤めることができ、とても恵まれていると感じています。授業などを通じて直接子ども達と関われる機会が少ないですが、今後も成長を見守りながら、私自身も精進していきたくと思っています。

### ◆駄知小学校

#### 松岡 篤徳



駄知小学校に赴任して2か月が経ち、新しい土地の生活にも少しずつ慣れてきました。日々、多くの先輩方から学び、支えて頂きながら毎日を過ごすことができている。小学校の子どもたちは素直でとても元気です。そんな子どもたちと共に学び合う中で、私も成長していきたくと思っています。一人前の教師になれるよう、これからも日々努力していきたくです。

**◆肥田小学校****内山 奈美**

「啐啄同時」

今年赴任させていただいた小学校の校長先生からいただいた言葉です。学級の中の一人ひとりの子どもの「啐」に気付き、

タイミングを逃さず対応しなさい、という厳しい言葉です。私にとってはまだまだ難しいことです。日々、子どもに寄り添い「啐」に気付ける大人でありたい、と思っています。

学級の成長著しい4年生の子供たちに負けないよう、教師として努力していきたいと思います

**◆肥田小学校****石丸 高綱**

肥田小学校に赴任してから三ヶ月が経ちました。まだまだ慣れないことが多く、楽しくも慌ただしい日々を送っています。自分の未熟さを痛感することもあります。しかし、そのた

びに子どもたちの笑顔に支えられ、肥田小学校の先生方にご指導とご支援をいただき、一歩ずつ教員としての道を歩んでいます。子どもたちの思いを受け止め、寄り添うことのできる教師を目指し、日々努力したいと思います。

**◆泉小学校****尾崎 城二**

「ピンピタグーだよ」「先生に注目だよ」毎日子どもたちの呼びかけが聞こえます。子どもたちとの生活が始まって2カ月半。どんなことも自分達の手でやりきろうとする姿勢に感動し学

ばせていただいています。また、わからないことが多い中、やさしく丁寧に教えてくださる先生方には感謝の毎日です。歌が得意なので子どもたちと一緒にたくさん歌いたいです。

**◆泉西小学校****有賀 友子**

私は、土岐市で生まれ育ちました。しかし、市の初任研で「織部のこころ」を教えていただいたり、高山城跡に初めて登ったりして「土岐市にこんなところがあつたのか。」と驚きと感動

を味わいました。これから子どもたちとこのような感動体験ができることを嬉しく思い、さらに研修に努めなければと身の引き締まる思いです。先輩の先生方から多くのことを学び、精進して参ります。

**◆土岐津中学校****佐々岡 謙伍**

土岐津中学校に赴任して初めはできないことばかりでただ無力感を感じるばかりでした。しかし先生方や他校の事務の方々にご指導を賜り、少しずつ職員や生徒から

「ありがとう！」という言葉をもらえるようになりました。まだまだできないことが多く迷惑をかける毎日ですが、ひとつずつできることを増やし職員、生徒、学校のためになれるよう成長していきます。よろしくお願いします。

**◆西陵中学校****山田 千博**

西陵中学校に赴任して一ヶ月が過ぎました。学校の一日は、生徒の「おはようございます」という元気な挨拶からはじまります。そして、授業や合唱、掃除、部活動、行事などに一生懸命取り組む姿が印象的

です。私は、多くの生徒と関わる中で学校の教育目標である「自立自尊」を目指し、笑顔あふれる学校生活を通して、共に成長できるよう頑張りたいと思います。

◆西陵中学校

塚本 久美子

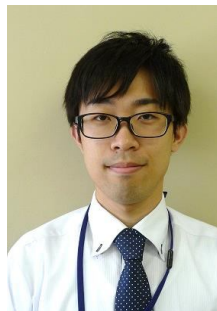


はじめて土岐市に来て、西陵中の職員室の温かい雰囲気と一生懸命な先生方の姿、素直で元気いっぱいの子供たちの姿が私の活力となっています。「この出会いには必ず意味がある。」今、私がここにいる意味を考え

ながら、そして、その答えを堂々と言えるように毎日の生活、一瞬一瞬に全力で向かっていきます。何一つ無駄なことはないので、どんどん挑戦し、自分のものにできるように頑張ります。

◆泉中学校

大宮 笙吾



初めての教師生活を初めての土岐市で、また、研修校の泉中学校で送ることになり、最初は不安でいっぱいでした。しかし、職場の先生方や多くの生徒に温かく迎えてもらえ、良いスタートを切ることができました。

このような恵まれた環境の中で、今年「授業を一人前にできるようになること」を目標とし、授業準備や教材研究に全力を注ぎます。よろしくお願ひ致します。

「心にひびく言葉」

胸に刺さる言葉

駄知中学校教頭 長谷川 哲也

最近読んだ本があります。タイトルは「残念な教員～学校教育の失敗学」です。著者は新聞記者から教員に転じた、という経歴の持ち主です。タイトルからして刺激的ですが、私自身胸にグサグサと刺さってくるものがありました。その一部を紹介します。

①残念な教員とは、生徒を成長させない教員

◆生徒の状態が理解できない、鈍感教員。

◆教育専門誌も読まない、学ばない教員。

◆自分とは異質と感じる相手と関わろうとしない、コミュニケーション不全教員

②勉強はできるが、教育技術が低い教員

◆プロ野球選手は練習を繰り返して試合に臨む。一方で授業に向けて練習もしない教員。

◆生徒が思考するのは、発問をきっかけとする。

その発問を事前に準備しない教員。

◆事前に板書計画を立てず読みにくい板書を書き生徒にストレスを与える教員。

③教師としてのプロフェッショナル意識が弱い教員

◆生徒たちはかけがえのない「今」を生きている。

「いつか気づいてくればよい」として、指導しきれない教員。

◆生徒に生き方を問う一方で、自らの生き方を問うことができない教員。教師は「なぜ自分は教師になったのか」と自問すべきである。

どうですか。辛らつな言葉や文ではありますが、「なるほど」とうなずける部分もあると思いませんか。私も、自らを振り返らなければいけない、という気持ちにさせられました。